

# 青山教会会報

「福音をあなたに」

イザヤ書五五章八〜十三節

ルカによる福音書一章一〜四節

牧師 増田将平

福音書記者ルカは十二弟子の一人ではありません。彼らの後で伝道の働きを受け継いだ使徒パウロと歩みを共にした人物です。パウロよりも若く、弟子のような存在であったようです。映画『パウロ』では投獄されているパウロの牢獄にルカが向いて励まし、パウロの言葉を筆記する場面が描かれています。パウロの手紙にはルカが登場しています。「愛する医者ルカとデマスも、あなたがたによるしくと言っています」。他の箇所ではこうあります。「わたしの協力者たち、(中略)デマス、ルカからもよろしくとのことです」。パウロは一人で福音を伝えたのではなく、彼の傍には協力者たちがいました。

その一人がルカでした。

ところが手紙にこういう言葉もあります。「デマスはこの世を愛し、わたしを見捨ててテサロニケに行ってしまった。ルカだけがわたしのところにいます」。共に神様を礼拝し汗を流して働いた仲間の一人が、パウロから去って行きました。パウロは「デマス」のことで心を痛めていたでしょう。彼が去ったのは「この世を愛した」からです。この世を愛して何がいけないのでしょうか。キリスト者は世を憎む世捨て人になることを求められているのでしょうか。いいえ、そうではありません。クリスマス降誕劇で教会学校の子どもたちはヨハネによる福音書三章十六節の言葉を唱和します。

「神は、その独り子をお与えになつたほ

どに、世を愛された」

愛し方が問題なのです。デマスは神を愛するよりも世を愛し始めました。何かを愛する時には何かを捨てるということが生じます。デマスはやがて神を捨てて、キリストを捨て、教会を捨て、そしてパウロを捨て、ルカを捨てました。ルカもまたデマスのことを忘れなかつたと思います。今朝の言葉で言えば、デマスは「キリストの教えが確実なものであることが

分からなくなった」のです。

ルカにはデマスに加えて、心にかかる者たちがいました。その一人がテオフィロでした。この人物はローマの高官でルカの友であり、ルカたちを経済面で支援したのではないかと考えられています。テオフィロはすでにキリストの教えをある程度聞いていたようです。けれどもそれが確かなことであるかがまだよく分かっていなかった。神を信じて生きよう、洗礼を受けてキリスト者になろう、という確かな決意がまだ生まれてこない。彼にもデマスのように世を愛する誘惑がありました。有力者でしたから権力、お金、

そのほか様々な世の誘いがありました。それは洗礼を受けたキリスト者であっても同様です。だから私もテオフィロの心境はよくわかるのです。ルカはテオフィロのためを思つてこの福音書を記しました。「多くの人々が既に手を着けています」。すでにルカの前に福音書を記した人々がいました。おそらく福音書記者マルコはその一人であつたでしょう。執筆中の仲間の話も聞いていた録を否定しているわけではありません。

それらの恩恵を受けつつ徴税人ザアカイや放蕩息子のたとえなど未収録の物語を集めた者として福音書を執筆しようと思いを立ちました。

ルカはイエス様に直接会ったことはありませんでした。それならどうして福音書を記すことができたのでしょうか。「最初から目撃した人々」がいたのです。十二弟子をはじめとする目撃者たちがイエス様の言葉、行いを人々に伝えてくれました。彼らが死ぬとその説教を聞いた人々が同じように語り伝えたのです。しかも目撃者たちは、イエス様の話を一つの情報として、語っただけではありませんでした。

「最初から目撃して御言葉のために働いた人々」とあります。目撃者は御言葉の奉仕者になったのです。そうせずにはいられない、そういう事柄が私たちの間で実現しているとルカは言います。ルカは「わたしたち」と記すことで自分が一人ではなく、ルカの先達の弟子たちとルカが属していた教会があったこと、ルカは教会に生きる一人であることを明記します。

「わたしたちの間で実現した事柄」、この言葉は「実現された」という受け身で

す。私たちの間で起きていることは、人の力によって実現したのではない。ただ神の力によって実現したということです。その始まりがクリスマスです。イエス・キリストの救いを目撃した人々は、そのままではいられない。それからは御言葉に仕える生き方を始めるようになるのです。その一例がルカでした。ルカは医者でしたが、パウロの同行者、福音書記者となつて御言葉に使える一人になりました。ルカは福音書を過去の、閉じられたこととして記しません。今もキリストは私たちの間で生きて、働いておられ、テオフィロの周りでも、御心が実現されつつあることを確信していました。イザヤ五十五章の言葉も御言葉の力、その働く様子を記しています。

ルカ一章四節の「お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていたいただきたい」の「確実」という言葉は「アスファルト」の元になった言葉です。舗装された道はしっかりと歩くことができます。ルカは福音書の物語によって、テオフィロがこれからの人生において世の誘惑に左右されない、確かでありし道を行くことを願いました。

この福音書の序文において一人のため

に記されたということは興味深いことです。つまり、神は不特定多数の人々に十把一絡げではなく、一人一人の魂に、あなたに語りかけるのです。

ですからルカはこの福音書をテオフィロだけのために書いたではありません。彼は私どもの代表です。「テオフィロ」に私の名前を入れて読むのです。

神はそのようなテオフィロたちを集めて、教会を建ててくださいました。

「テオフィロ」には二つの意味があります。一つは「神の愛する者」という意味です。「あなたがたは神によって愛されています。この物語がその事実を語るのです」そうルカは語りかけるのです。もう一つの意味は「神を愛する者」です。人は神に愛されていることを知り、やがて神を愛する者になるのです。

ルカがそうでした。「テオフィロ」、それはあなたのことでもあるのです。

(十一月二五日主日礼拝説教要旨)

